

施設調査結果について

今後の本市の生涯学習関連施設のあり方を検討するための基礎資料として、施設の現状と課題、新型コロナウイルス感染症対応や施設間連携等の展望について、各施設の担当者を対象とした調査を実施しました。調査の概要は以下の通りです。

対象：市内の生涯学習関連施設（計 45 施設）

（公民館 24、図書館 11、ホール・ギャラリー7、ウェーブ1、児童センター2）

方法：自由記述形式のヒアリングシートを配付・回収

期間：2020年6月17日～6月30日

結果：44 施設より回答（複数施設をまとめた回答があったため回答数 34、回収率 100%）

各施設からの回答を集約した結果は以下の通りです。

（1）生涯学習施設としての現状と課題について

① 施設面での課題

施設面については、施設・設備の老朽化に伴う多くの課題が回答されています。特に空調設備やトイレについては、多くの施設で課題となっています。

主な意見
◇施設・設備の老朽化対策【公民館・図書館・ホール等・その他】
◇駐車場が利用しにくい【公民館・図書館・ホール等・その他】
◇雨漏りがある【公民館・図書館】
◇空調設備の不備（効かない、温度調整ができない）【公民館・ホール等】
◇トイレの整備（和式トイレの洋式化、多目的トイレの整備等）【公民館・ホール等・その他】
◇椅子・机等が古い、重い【公民館・ホール等】
◇防音設備の必要性【公民館】
◇バリアフリー化の必要【ホール等・その他】
◇照明の不備（薄暗い、LED化）【ホール等】

※「ホール等」はホール・ギャラリー、「その他」はウェーブ・児童センター（以下同様）

② 事業面での課題

事業面では、利用者の固定化や市民ニーズ・地域ニーズへの対応、若い世代の参画等が課題として示されています。また、公共機関として取り組むべき事業のあり方や、学習成果の活かし方を含めた取り組みの必要についても指摘されています。

主な意見
◇専門性のある職員・地域学習推進員の確保、職員の意識改革が課題【公民館・図書館】
◇市民・地域のニーズの把握が困難、新規事業を行うための情報収集が課題【公民館・その他】
◇主催事業のマンネリ化（趣味・芸術への偏り）、利用者の固定化【公民館】
◇市民性を養うことにつながる学習、学びを活かす「次のステップ」の必要性を感じる【公民館】
◇オンラインでできることと、人でしかできないことの線引きを明確にしていきながら講座内容を考えられるようになればと思う。【公民館】
◇若い世代の参画の呼びかけが必要・新しい参加者が入りにくい雰囲気【公民館】
◇貸館との兼ね合いでの会場の確保が課題【ホール等】
◇市民参加型的主催事業を目指しているが、コロナの影響で実施できないので当分はオンラインでの主催事業を課題としたい【ホール等】
◇公的機関としての取り組むべき事業の在り方、バランスが難しい【その他】

③ 利用増や利用満足度の向上のための課題

施設の認知度の向上や、幅広い利用者の獲得について、広く課題として認識されています。インターネットの活用や学校との連携の提案も示されています。

主な意見
◇公民館が何をするとところなのかに始まり、地域学習推進委員会の企画等についてのPRが足りない。まだ利用したことのない人たちをどう振り向かせるかの工夫が必要【公民館】
◇若い人たちの利用を増やすことが大きな課題。現役世代の利用・行事への参加が少ない【公民館】
◇利用者が限定されている。もう少し広い層に利用されるのが本来の姿だと思う【公民館】
◇地域の高齢者が増えているはずなのに。利用するグループが徐々に減少している【公民館】
◇学校の総合的な学習などを活用し、利用回数を増やす事で将来的な利用度が上がるのでは【公民館】
◇子育て世代の利用を増やすための取り組み【公民館】
◇資料費減により多様な収集が進まず、書架・図書展示架に古い本が並ぶことが多い。地域性を考慮した特色ある図書館運営のための体制づくり【図書館】
◇オンライン等の新しい活用方法の提示が必要【ホール等・その他】
◇施設の認知度の向上【ホール等】

◇仕事や育児・介護などで講座等に来られない市民に向けてネットで発信するなど新たな媒体を使った事業実施が必要【その他】

④ 今後取り組みが求められる地域の課題について

③の課題とも関連して、来館しにくい層への働きかけが課題として示されています。立地を生かした事業展開や、地域の実情に応じた取り組みの必要性についても指摘されています。

主な意見

◇地域の自治会役員の高齢化と後継者の不足。中心となって活動する人材の育成が急務【公民館】

◇中高年の参加、男性の参加【公民館】

◇地域住民にとって使いやすい公民館。地域の団体や地域住民のグループの活動の優遇の必要性の検討（一般利用との棲み分け）【公民館】

◇防災意識の向上【公民館】

◇地域情報（自治会活動など）の周知・共有、北部地域の読書振興【図書館】

◇駅近、若者の多い立地を生かした事業展開【ホール等】

◇学びが地域に還元される循環モデルが現状では弱いと感じられる。その部分はもう少し強化されるべき【ホール等】

◇来館が難しい利用者に向けた独自の情報の発信等【その他】

◇地域とのつながりがほとんどない。地域的な課題の把握ができていない【その他】

⑤ 市民、学校、企業等との連携・協働についての有効な取り組みの事例、または今後考えられるような取り組みについて

市民ボランティアとの連携や市内で活動する団体・個人との連携、学校・学生との連携等、いくつかの連携・協働の取組事例が示されています。ただ、具体的な連携の事例を回答した施設は全体の半数以下にとどまっています。

主な意見

◇老人会や子育てサークルの活動の場の提供、福祉施設利用者の活動の場の提供【公民館】

◇放課後の子どもたちの居場所の1つとして、利用できないか？（市教委と連携が必要）【公民館】

◇公民館では企業との連携はむずかしい。学校と公民館と連携するカリキュラムはむずかしいのでは？【公民館】

◇有効な取り組みの事例：公民館地域学習推進委員会、宮水ジュニア、手話関連講座・講演会、ボランティア養成講座（初級点訳、要約筆記など）。今後考えられる取組み：企業との連携・協働についての研究が必要。（費用、社会教育法との兼ね合いなど）【公民館】

◇学校の郷土学習・総合的な学習との連携、公民館についての学習【公民館】

◇市民ボランティアによる「おはなし会」の実施、本の修理【図書館】

◇大人の塗り絵コンテスト展覧会【ホール等】

- ◇市内で活動する作家作品の展覧会、高校美術部の展覧会、音楽団体と連携したコンサート【ホール等】
- ◇学生の企画運営による公演【ホール等】
- ◇市民企画講座、学校や企業への出前講座、実行委員会形式での「いきいきフェスタ」【その他】

(2) 新型コロナウイルス感染症防止対策を踏まえ、今後生涯学習関連施設として新たな取り組みが必要になると思われることについて

① 来館者の安全確保に関する新たな取り組みについて

来館者の安全確保については、すでに様々な取り組みが実施されています。ただ、すべての施設で同様の取り組みが実施されているというわけではないのが現状です。

主な意見
◇約束事（マスク着用・ソーシャルディスタンスの確保・消毒や換気の徹底）のプリントを来館者全員に配布し、周知をはかっている【公民館】
◇西宮市立公民館「新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」を遵守し、状況に応じて更なるバージョンアップを図るとともに、第2波、第3波に備えて、対応の用品器具類が即日充当できる様な予算建てが必要【公民館】
◇時間を費やしグループごとにくわしく説明している【公民館】
◇感染症が疑われる急病人を一時的でも隔離する場所が必要である。・近隣の医療機関との連携を密にしておきたい【公民館】
◇閲覧席等の予約システムの導入、自動貸出・返却機の導入【図書館】
◇非接触の体温測定設備、効率よい換気のための吸気装置設置、空気入れ替えのためのサーキュレーター、設備の抗ウィルス加工【ホール等】
◇施設入口にサーモグラフィの設置、人体に無害の消毒液の噴霧器の設置など【ホール等】

② 無料 Wi-Fi やタブレット等の ICT 環境整備のための課題について

ほとんどの施設から、今後各施設において、無料 Wi-Fi の整備が必要という意見が示されています。一方で、施設利用ではなく無料 Wi-Fi のみの利用目的での来館等への対応や、職員の知識・スキルの向上等の課題についても指摘されています。

主な意見
◇グループによって Wi-Fi やパソコンの利用希望がある。館内に Wi-Fi 環境の整備が望ましい【公民館】
◇公民館を利用する年齢層が割合として高いので、今のところそれほどニーズはないが、今後その必要はあると思われる【公民館】
◇避難所として使われる公共施設であれば、無料 Wi-Fi は必ず必要なもの【公民館】

- ◇インターネットを活用した講座のニーズが高まっているが、地域の課題解決や人とのつながりを大切にするといった公民館の一番大切にしたい部分と相容れないことも多く感じる【公民館】
- ◇利用者から一定要望はある。検討中【ホール等】
- ◇無料 Wi-Fi スポットができると、施設利用と無関係な方々の Wi-Fi 目的の来館等への対応が必要になり、実際の導入には様々な整備も必要【ホール等】
- ◇ネット配信や展示のリアルタイム広報ができる環境整備が必要【ホール等】
- ◇動画編集・制作のみならず、著作権やその周辺の法律、ネットリテラシー等、総合的なスキルアップは必要だと思う【ホール等】

③ その他新たな取組みについて

いくつかの取組みが回答されています。市全体での統一的な対応が求められる問題もあると考えられます。

主な意見
◇利用に際してのルールが細かく対応が大変である（感染防止のためには仕方がないが）【公民館】
◇新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をした上での避難所運営【公民館】
◇サイレント、自習、交流など、利用目的に応じたスペースの確保【図書館】
◇少人数でもしやすきよう、利用区分の使用料の減免などの整備【ホール等】
◇展示の中止が相次ぎ、1 階の路面の展示ポスターの掲示スペースがずっと空き寂しいことから、近隣作家やスタッフの案でコロナ応援のメッセージや作品の展示を行った【ホール等】
◇web での申し込み（フォトコンテストで取り入れる）【ホール等】
◇感染拡大防止のための統一的なマニュアル作成【その他】

(3) より効果的・効率的な生涯学習施策の推進を目的とした、施設間連携や施設の複合化・総合化のメリット・デメリットに関する考え

① 施設の維持管理・窓口の一本化・ロビーの活用等の施設面での連携について

メリットとしては、施設の効率的な運用や利用者の利便性の向上についての意見が多くなっています。また、一部の施設では、連携する施設の特徴に応じた運用例についても回答されています。一方デメリットとしては、担当部局の違いによる対応やルールの一貫性や情報共有の課題に関する意見が多くなっています。業務の複雑化、非効率化を懸念する意見も複数あります。

主な意見
<p><u>メリット（予想される効果）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇西養と併設されているので、障がいを持たれている方の拠点として、ボランティアセンターが強い意識を持ち、活動されている。その活動の支えが本館にあると考える【公民館】 ◇保健センターとは情報を共有し、必要に応じて関係機関に繋げる等連携している【公民館】 ◇スペースの有効活用が可能になる【図書館】 ◇施設管理（施設保全、清掃、警備など）が効率的になり、臨時休館対応が円滑に行える【図書館】 ◇総合窓口があれば、利用者は尋ねやすくなり、気軽な来館につながる【図書館・ホール等】 ◇情報が1か所に集まるため効率よく案内することができる【ホール等】 ◇修繕等を行う場合、全館の景観の統一がしやすく、併せて発注することで経費削減にもつながる【ホール等】 ◇窓口を一本化することで人員削減が期待できる【ホール等】 ◇ロビーや備品等、施設面での連携については、市民サービスの向上につながると考えられるため、組織を越えて柔軟な対応ができれば良い【その他】 <p><u>デメリット（課題）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇使用ルール（手続き）、使用申請書類、使用料などが共通化されることが望ましい【公民館】 ◇公民館と市民課分室が一緒の窓口のため来客者が戸惑うことが多い。公民館職員が分室の業務を知っているものと思いき一方的に問い合わせがある【公民館】 ◇公民館の運営のルールはかなり複雑であり、公民館同士で統一した運用となるよう調整が行われている。他施設との連携は、利便性が向上する一方で、例外的扱いが増え、事務的に複雑化、非効率化する可能性もある【公民館】 ◇同一建物内に図書館分室があり、コロナ対応や災害時対応に差がある。基準の統一化を図る必要あり【公民館】 ◇各施設の開館時刻・閉館時刻・受付時間・職員の勤務時間（特に昼休憩時間）を揃える必要がある【公民館】

- ◇それに対応することのできる職員をどれだけ揃え、育成することができるのかどうか。事業の効率化を中心に据えた変化に対して対応できる人を育成することの難しさ【公民館】
- ◇施設を総括できる職員、総合窓口を担当できる職員の配置【図書館】
- ◇情報共有の方法【図書館】
- ◇それぞれの施設の管轄部署が異なるため、特にトラブルが起こった場合等動きづらいように思う。臨時休館等（警報発令時）の対応にずれが生じ、市民の方の混乱を招くおそれがある【ホール等】
- ◇プレラホールと中央公民館では利用料金体系がかなり異なるので、窓口を一本化することによりお客様が利用される際に、なぜ同じような広さの部屋の金額がそんなに異なるか困惑されたり、住み分けが複雑化、難化することが考えられる【ホール等】
- ◇画一的に統合・一本化するのではなく、それぞれの施設の存在意義や実施事業を踏まえて総合化・複合化を進めることが必要。【その他】

② 講座・イベントの共催や情報共有等の事業面での連携について

メリットとして、これまで施設を利用していなかった市民へのアプローチや、効果的・効率的な事業の運営について複数の意見があります。デメリットについては、①とほぼ共通ですが、新型コロナウイルス感染予防や利用ガイドラインについても、担当部局による対応の違いが指摘されています。

主な意見
<p><u>メリット（予想される効果）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇相互に利用者を誘導・案内できる。広報・周知が強化できる【図書館・その他】 ◇情報共有に関しては連携体制がとれているとスムーズなご案内ができサービス向上につながる【ホール等】 ◇連携することにより、合同での自主企画事業が可能となり、内容に幅が出せる【ホール等】 ◇生涯学習の体系化…社会教育（生涯学習）関係課の特徴を生かしたもの【公民館】 ◇共催により利用が増える。予算を効率的に使える【公民館】 ◇近い日程で同じようなテーマの講座・イベントをすることがなくなる【公民館】 ◇類似事業については、共催や連携することにより、効果的・効率的に実施できる。施設を利用したことのない方への周知や啓発が可能になる【その他】 ◇市民文化祭も地域の行事も、公民館・市民館の区別なく、館全体を使って実施している。イベントのときには、同じ建物内で自由に使える、動けることが大事だと思う【公民館】 <p><u>デメリット（課題）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◇準備段階で調整に時間がかかったり、責任があいまいになることが考えられる【公民館】 ◇職員の意識と引継ぎ【図書館】 ◇特に新型コロナウイルスの感染予防や利用ガイドラインに関しては、同じ建物内の施設または近隣施設（市外も含む）との情報共有が必要と考える【ホール等】

◇課が違うことで考えも違うのでどこまで歩み寄れるかでやりたい事業が違ってくる【ホール等】

◇類似事業の把握と他部署との連携方法が課題である【その他】

(4) その他、新しい生涯学習推進計画の策定にあたっての意見

今後の生涯学習施設のあり方や、福祉領域等の地域課題と連携した取組の必要性について、いくつかの意見があげられています。

主な意見

◇ぜひ生涯学習担当課の方に、各地区の老人会や社会福祉協議会の方との懇談会等を開催頂いたり、活動の盛んな中央公民館の講座やグループの活動を視察頂いたりして、計画策定の参考にされたいと思う【公民館】

◇目指している姿と取組途中の姿を、市民にわかりやすく示してほしい。また、成果と課題も同様に示してほしい【公民館】

◇学校教育では“障害児者の地域での共生と自立”が大きなテーマとなっていますが、公民館にきてから、まだ一度もお目にかかりません。福祉や社協の方へ行けばよいという住みわけ現象でしょうか。同じ空間にともにいること地域の年配の方や障害児者、地域の方達との「居場所」づくりやそこからの何か創造性あるものができるのではと思います【公民館】

◇学びと活動の好循環を創り出すには、公民館の役割は非常に大きいと考える。個人の学びを通して人と人がつながる地域社会の育成に公民館は欠かせない施設であるとする【公民館】

◇利用者の年齢層を広げることが必要【公民館】

◇地区公民館に於いては利用者が固定化されていたり、年齢層に隔たりがあり高齢者が多かったり、部屋の種類により利用状況に差が生じていたり、利用者に社会教育とは何か理解されていなかったり等々、普遍的な課題も多い。世代を超えた地域交流の促進や、市民による街の活性化に繋がるような生涯学習の在り方を目指して、それを推進するべく新たな「まなびの施設」として、施設・組織・事業・仕組み・料金体系等の総合化への検討も必要と思われる【公民館】

◇今後の生涯学習関連施設等の整備については、「機能の融合と効率的な配置」に努め、市民生活・生涯学習を支える真の拠点施設として、各地域に「生涯学習センター（機能）」として整備する必要があると考える【図書館】

◇今後具体的な取り組みは未定だが近隣の事例で調査しているもの：市民合唱団、市民オーケストラなどの創設・育成、学校の授業や部活動などの発表の場としての施設利用の活性化、無観客の配信公演や動画作品撮りを行う会場としての活用【ホール等】

◇生涯学習といった時に、どうしても施策がリタイア世代を対象にしたものに偏りがちなので、現役世代をターゲットにした施策に比重を移すことも考えられるのではないかと【ホール等】